

太陽が昇るから夜が明ける ～1学期始業式の校長式辞から～

4月9日（月）平成30年度1学期始業式を行いました。学校長式辞から抜粋。

太陽は 夜が明けるのを待って昇るのではない
太陽が昇るから 夜が明けるのだ

これは、校長室の前の掲示板に書かれていることばです。誰のことばかと思って調べてみると、兵庫北部・豊岡生まれの有名な教育者、東井義雄さんのことばでした。東井さんは1991年、今から27年前に亡くなっていますが、たくさんの名言を残しておられます。

さて、どんな意味なのでしょう。これは、夜明けは、待っていてもやって来ない、自分が行動することによって初めて、夜明けをもたらすことができるということです。つまり、ほかの人やまわりの人が何かしてくれるのを待っていても何も始まらない。まず自分から行動しないとイケないということを言っています。

私たちは何かにつけて、できないことやうまくいかないこと、やらないことを環境や他の条件の責任にしやすい。運が悪かった、環境が悪かった、学校が悪かった、あの人のせいだと責任転嫁しがちです。しかし、いかに責任転嫁をしても問題は解決しません。人生にはいろいろなことが起こるけど、どんなときにも責任転嫁せず、周りがどうか、人がどうか言わずに、自分から動き出すことが大事です。

春休み中に部活動をしているみんなの姿を見た地域の方から、「西高の生徒はよく頑張っていますね、見ていて気持ちが良いですね」とほめていただきました。グラウンドで練習している野球部の生徒、川沿いを走っているライフル射撃部の生徒のことだと思います。地域の方はみんなの姿をよく見ておられます。そして応援してもらっています。

自ら、自主的に頑張る生徒がもっともっと増えることで、学校生活に活気が出ます。高校生活が楽しくなります。

学校生活では、「楽しそうならやろうかな」ではなく、「自らやるから楽しくなる」のです。本年度もいろいろなことに挑戦し、西校生としてみんなでもう一歩前進・成長していきましょう。

（校長 高橋信之）

